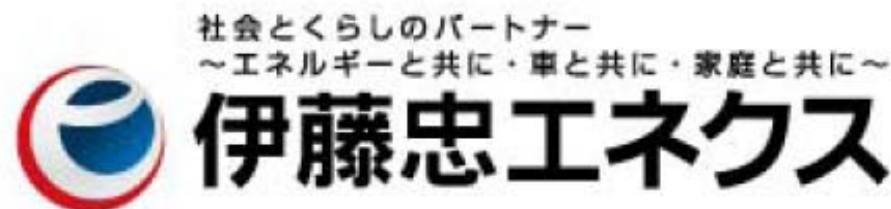


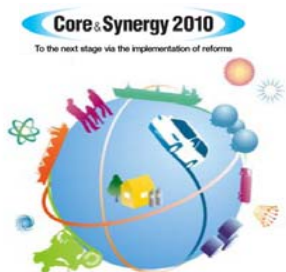
Providing Energy Blessings to All
Energy supports our everybody life and society.
To provide energy when and where its needed,
Is our major responsibility.

2009年3月期 決算説明会

日時: 2009年5月15日(金)10時～
場所: 伊藤忠エネクス本社30階会議室



IR室 TEL : 03-6327-8009
(E-MAIL: enex_irpr@itcenex.com)



Providing Energy Blessings to All
Energy supports our everybody life and society.
To provide energy when and where its needed,
Is our major responsibility.

発表者

代表取締役社長

小 寺 明

2009年度3月期 CONTENTS

(1) 連結損益計算書	4ページ
(2) 連結貸借対照表	5ページ
(3) 連結キャッシュフロー計算書	6ページ
(4) 連結販売数量	7ページ
(5) セグメント別情報	8ページ
(6) 2008年度レビュー	9～10ページ
(7) 中期経営計画「Core & Synergy2010」概要	11ページ
(8) 2009年度取組事項	12～18ページ
(9) 配当方針	19ページ

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2007年度 実績	Core&Synergy2010 2008年度計画	2008年度 実績	前年 実績比	当初 計画比
売上高	1,093,752	1,520,000	1,164,708	106%	77%
営業利益	7,700	10,200	9,881	128%	97%
経常利益	8,306	10,200	10,227	123%	100%
当期純利益	4,187	6,000	5,418	129%	90%

連結貸借対照表

	2008年3月期	2009年3月期	増減額
流動資産	158,721	141,888	△ 16,833
固定資産	96,406	105,698	9,292
流動負債	135,415	116,895	△ 18,520
固定負債	36,004	39,804	3,800
純資産	83,707	90,886	7,179
総資産	255,127	247,587	△ 7,540

POINT ※ 主な増減要因

【流動資産】	現預金	+9,310	【負債合計】	仕入債務	△25,988
	売上債権	△27,095		有利子負債	+3,983
【固定資産】	コーナンフリート子会社化及びトレード事業承継による増加		【純資産】	当期純利益	+5,418
				配当金支払い	△1,467
				トレード事業承継関係	+3,538

連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	2008年3月期	2009年3月期	増減額
営業活動CF	14,189	29,263	15,074
投資活動CF	△ 5,022	△ 1,703	3,319
財務活動CF	△ 8,804	△ 24,840	△ 16,036
現金及び現金同等物 期末残高	33,909	43,219	9,310

POINT

※ 主な要因

【営業活動CF】 税前利益+10,284、売買所要資金の減少+14,721

【投資活動CF】 固定資産の取得・売却△5,144、
 コーナンフリースの子会社化に伴う現預金収入+2,877

【財務活動CF】有利子負債の減少△23,125

【現金及び現金同等物】期首33,909、各活動による増加+2,720、

トレード事業承継による 増加+6,590

連結販売数量(主要6品目)

グループ中期経営計画



～変革の実行を通じて新たなステージへ～

(単位:千kl、千t)

	2008年3月期	2009年3月期	前年比
ガソリン	3,606	3,832	106%
灯油	1,856	1,805	97%
軽油	2,797	2,983	107%
重油	2,119	3,060	144%
燃料油【計】	10,378	11,680	113%
アスファルト	293	272	93%
LPガス	1,099	994	90%
【総計】	11,770	12,946	110%

POINT

- 燃料油は下期からのトレード事業の継承分が寄与。(トレードを除く前年比は92.6%)
- ガソリン販売数量はトレードを除いて前年比100.3%。
(業界全体の2008年度販売は前年比97.3%)
- 灯油及びLPガスは暖冬及び消費マインド冷え込みにより減少。

セグメント別情報(連結)

(単位:百万円)

産業マテリアル事業本部

	2007年度実績	2008年度実績	前年比
売上高	133,811	137,044	102%
営業利益	2,000	3,465	173%

カーライフ事業本部

	2007年度実績	2008年度実績	前年比
売上高	824,916	818,235	99%
営業利益	7,073	6,934	98%

ホームライフ事業本部

	2007年度実績	2008年度実績	前年比
売上高	135,023	124,274	92%
営業利益	2,365	1,987	84%

トレード事業本部

	2007年度実績	2008年度実績	前年比
売上高	0	102,484	-
営業利益	0	402	-

連結消去

	2007年度実績	2008年度実績	前年比
売上高	-	△ 17,329	-
営業利益	△ 3,738	△ 2,909	78%

全社【計】

	2007年度実績	2008年度実績	前年比
売上高	1,093,752	1,164,708	106%
営業利益	7,700	9,881	128%

2008年度レビュー

～取組事項～

1. 石油製品トレード事業・物流事業の承継

- 国内ネットワークとの垂直展開
- ロジスティックス機能の拡充

2. コーナンフリート(株) グループ会社化

- エネクス系列CSとしてネットワーク化
- グループ内の軽油販売事業の強化

3. LPG元売会社「ジャパンガスエナジー(株)」への参画

- LPG 元売・卸機能の強化
- 総合的競争力を有するLPG事業グループの構築

2008年度レビュー

～中計のスタート時と2年目の環境変化～

項目	経営計画策定時	現在	差異
国内実質経済成長率	+1.9% (’07年度)	△3.3% (’09年度)	△5.2%
WTI原油	\$ 100.98 / bbl (’07年4月1日)	\$ 58.02 / bbl (’09年5月13日)	△ \$ 42.96 / bbl △42.5%
為替	100.84円 / \$ (’07年4月1日)	96.89円 / \$ (’09年5月13日)	△3.95 / \$ △4.1%
国内石油製品需要 (エネ庁見通し)	218,479千KL (’07年度)	191,126千KL (’09年度見通し)	△27,353千KL △12.5%

1. 経済成長の大幅失速
2. 化石燃料離れの加速
3. 元売再編の加速

中期経営計画「Core&Synergy2010」概要



コア事業の強化とシナジーの創出のためにスタートした中期経営計画

期間	2008年度～2010年度(3ヵ年)
位置づけ	新たな経営資源、機能、ビジネスモデルの獲得によって、グループの事業基盤の再構築を行い、成長路線を確立する期間とする
呼称	Core & Synergy 2010 ～変革の実行を通じて新たなステージへ～
基本方針	グループ力の結集によって、垂直水平方向のグローバル展開を図りCoreの強化及びSynergyの創出を行い、収益倍増を実現する。

(単位:百万円)

	2008年度実績	Core&Synergy 2010 2009年度計画	2009年度業績予想	2009年度計画比	Core&Synergy 2010 2010年度計画
売上高	1,164,708	1,780,000	1,180,000	66%	1,800,000
営業利益	9,881	13,500	10,200	76%	15,500
経常利益	10,227	13,800	10,200	74%	15,900
当期純利益	5,418	7,000	5,500	79%	8,000
総資産	247,587	323,000	239,400	74%	330,000

2009年度取組事項

社会・顧客満足

成長・拡大戦略

- ・元売再編の中で、戦略取組の実現
- ・販売店ネットワーク強化による販売力拡大
- ・販売店機能の多角化推進
- ・新経営資源のコア化及びシナジーの実現
→トレード・フリート・LPガス元売事業
- ・物流から販売までのグローバル機能の発揮

経営理念の実行・将来への布石

「社会とくらしのパートナー」
～社会インフラとしてのエネルギーから人を
育み、くらしと心を豊かにするエネルギーまで～

- ・総合エネルギー提案企業への展開
- ・新エネルギービジネスの構築
- ・地域社会密着型ネットワークの構築

量的拡大

グループ中期経営計画

Core&Synergy 2010

～変革の実行を通じて新たなステージへ～

効率向上・コスト削減戦略

- ・総経費率の改善
- ・総資産の圧縮(レシオの改善)
- ・業務の合理性・効率性の追求
- ・ロジスティックス機能の強化
→グループ内
→業界内

合理的経営戦略の推進

～コーポレートガバナンスの強化～

- ・自己責任型経営
- ・説明責任を果たす経営
- ・CSR・コンプライアンス経営
- ・グループ経営の推進
- ・人材開発・育成

質的改善

株主・従業員満足

販売店ネットワーク強化による販売力拡大

原点回帰: LPガス事業の強みを活かした共生によるエリア展開

地域に根付いた
お店

24時間無休・
機動力のあるお店

顧客接点が強く
信頼ある店舗

具現化

販売店(個々)の自己完結運営

点(個々)から面による効率的グループ運営

業務の統合(グループカ)による効率運営

- ・ 業務サポートシステム(G-BINGO)
- ・ 暮らしの森コールセンター

グループ運営(共生)

業務の効率化

コスト削減

グループ展開

LPガスユーザー中心(点)の営業

エリア(面)の営業展開

幅広いエリア展開による収益UP

暮らしの森
アスクラスカード

食育活動
(料理教室)

アスクラス
リフォーム事業

太陽光発電
・ W発電

販売店機能の多角化推進 ~ イツモレンタカー ~

1. 車関連事業

※ 赤字はエネクスオート(株)の取り扱い商材

SS取扱い既存商品

- ① 給油
- ② 洗車【ENEXWASHER】
- ③ オイル【エネクスオイル】
- ④ ケミカル【エネクスケミカル】
- ⑤ パーツ【フラットワイパー】
- ⑥ タイヤ

CS多角化メニュー

- ① 車検整備【カーライフホリデー】
- ② 軽板金【キズ直し安兵衛 マイクロリペア】
- ③ 車買取・販売事業【カーコレクション】
- ④ 携帯販促サービス【CSギヤ】

既存ターゲット

自動車保有者

+

中古車レンタカー
イツモレンタカー 加入目標: 500店

新ターゲット

地域生活者

2. イツモレンタカーの意義

- ① コア事業(系列CS)経営基盤強化
- ② 充実したサポート機能を有し、選ばれる商社
- ③ 「地域生活者」から支持される生活関連ビジネスへの入り口

グループナッジ

新経営資源のコア化及びシナジーの実現

(1)トレード事業

- 輸出入機能、需給調整機能の充実
- 元売との連携強化
- 国内ネットワークとのシナジー創出

(2)フリート事業

- フリートリテール機能拡充
- 複合的供給形態(自家給油所「インタンク」・CS)提案力強化

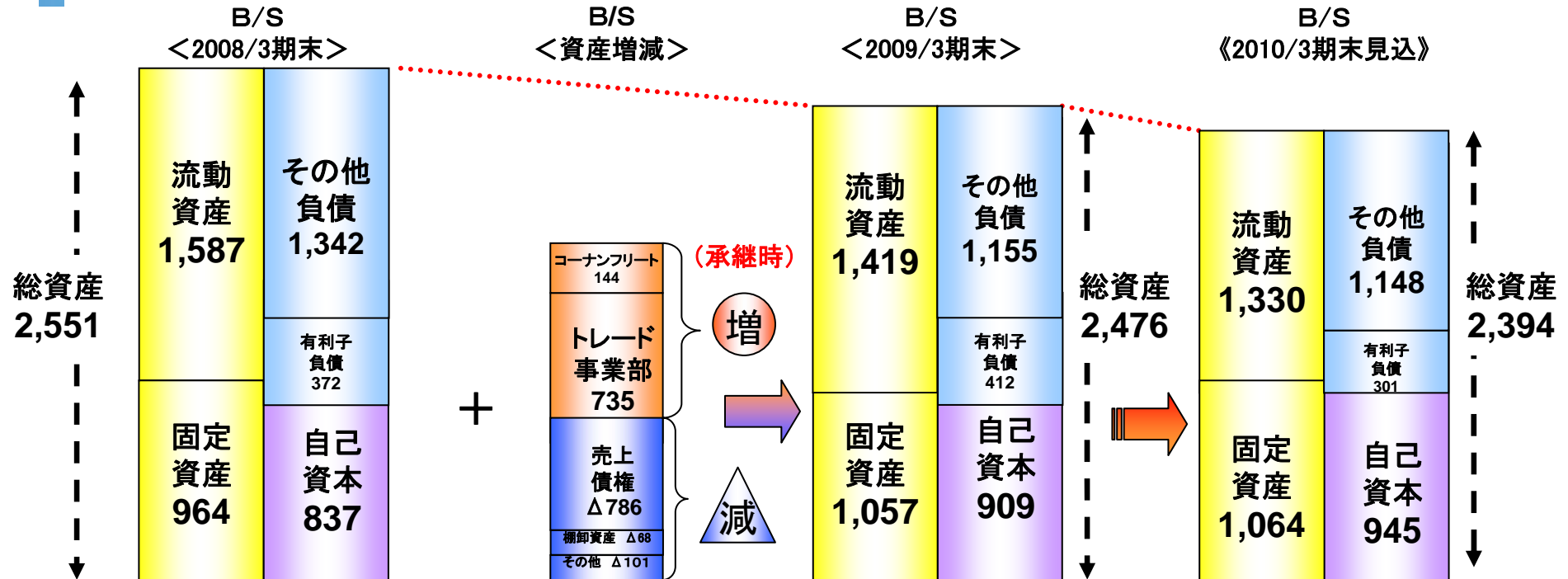
(3)LPガス元売事業

- 上流から下流までの一気通貫体制構築による卸売競争力強化
- ジャパンガスエナジーを核とした下流分野でのグループ力強化

効率向上・コスト削減戦略

総資産の圧縮(レシオの改善)・総経費の改善

(単位:億円)



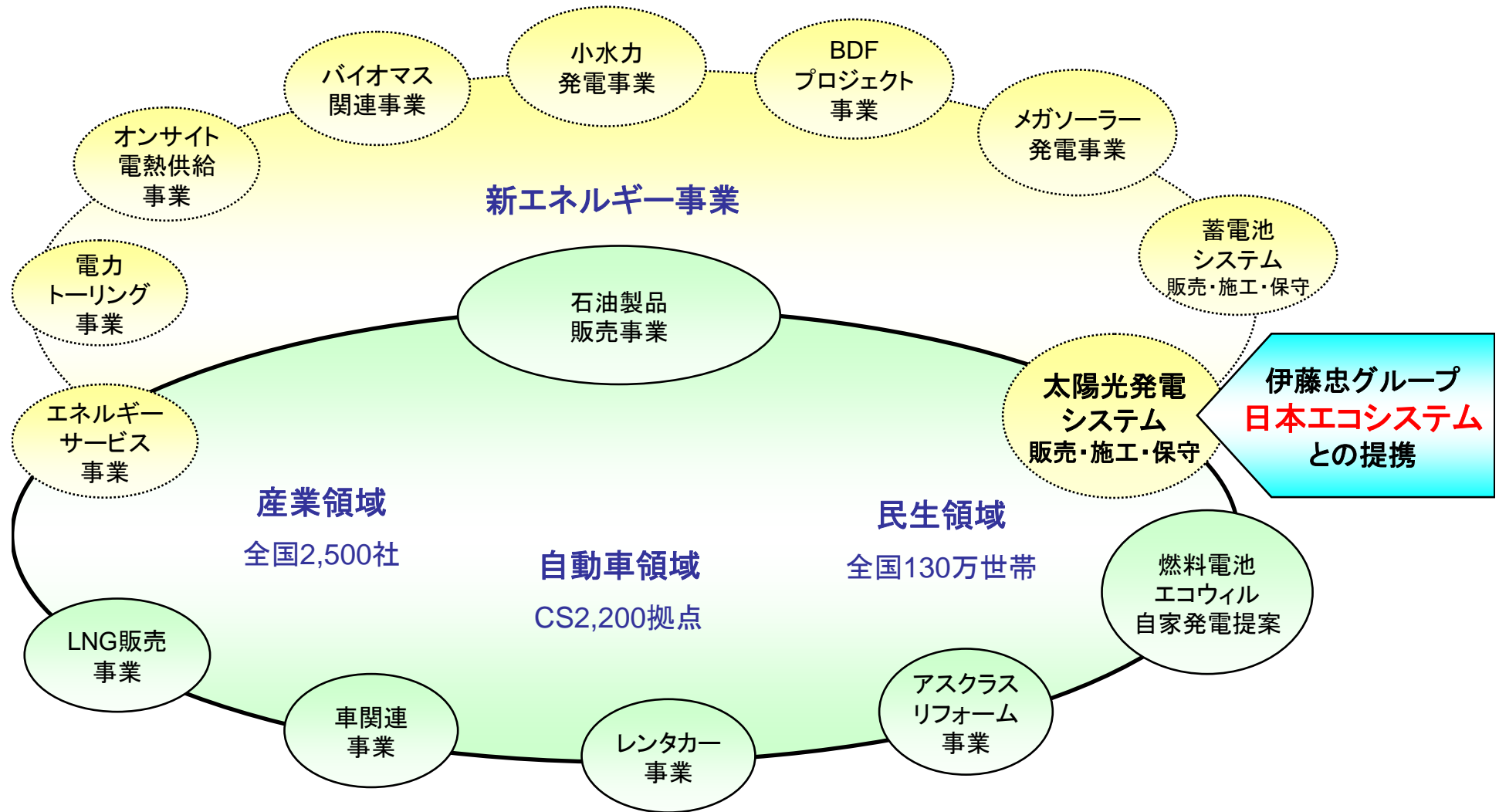
主な指標の推移

(単位:億円、%)

	2008年3月	2009年3月	前期比	2010年3月(見込)	前期比	2011年3月中期経営計画
既存事業投資の厳選/固定資産	964	1,057	93	1,064	7	1,050
総資産の圧縮/総資産	2,551	(3,400) 2,476	△ 75	(3,234) 2,394	△ 82	3,300
ROA(総資産経常利益率)	3.4%	(3.0%) 4.1%	0.7%	(4.3%) 4.8%	0.7%	4.8%
自己資本比率	32.8%	(26.5%) 36.7%	3.9%	(29.0%) 39.5%	2.8%	30.0%
有利子負債比率	14.6%	(13.6%) 16.7%	2.1%	(13.9%) 12.6%	△4.1%	13.7%
総経費率	88.3%	(86.7%) 86.7%	△1.6%	(84.7%) 85.7%	△1.0%	83.0%

() は中期経営計画数値

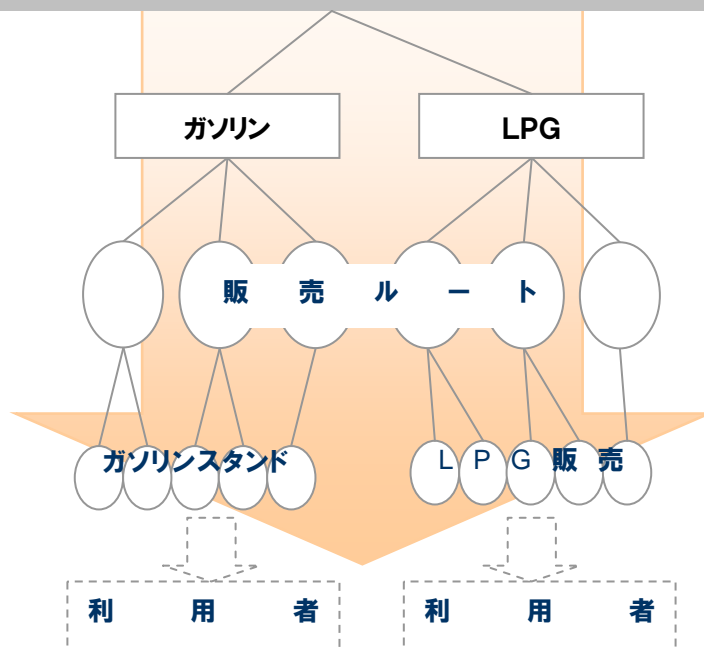
新エネルギービジネスの構築



地域社会密着型ネットワークの構築

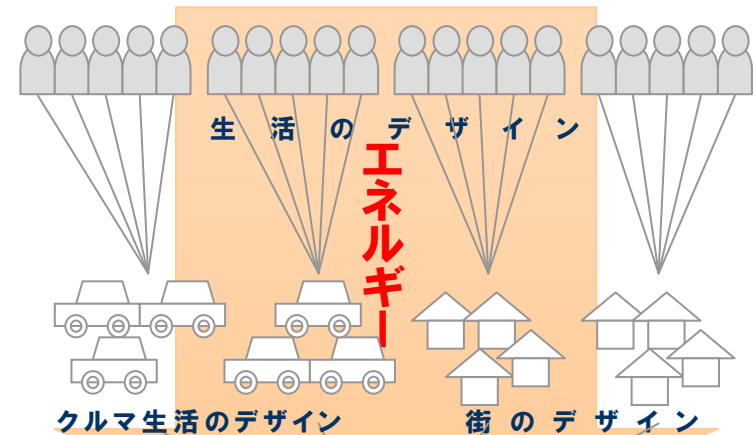
過去の視点

エネルギー供給企業＝伊藤忠エネクス



これからの視点

地域生活者視点からの事業基盤分析



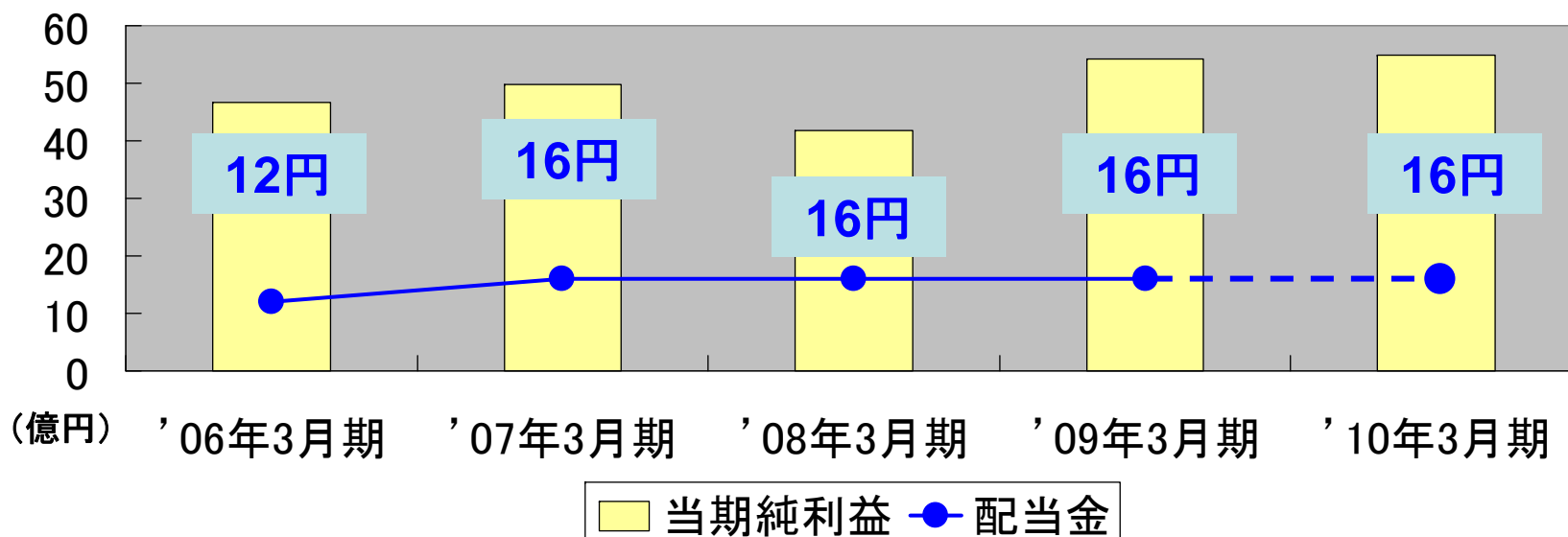
総合エネルギー提案企業＝伊藤忠エネクス

地域社会・生活のデザインを

エネルギーを通じて提案する

配当方針

- 配当性向30%以上を目標。
- 通期の配当は業績を勘案しながら対応。



	´09年3月末	´10年3月末 予想
配当性向	30.50%	34.00%
EPS(1株当たり当期純利益)	52.44円	47.07円
BPS(1株当たり株主資本)	759.66円	808.51円

ご清聴ありがとうございました

(1)ご注意

●資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

●また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

(2)問い合わせ先

伊藤忠エネクス株式会社 IR室

【TEL】03-6327-8009 【FAX】03-5418-2203

【E-MAIL】enex_irpr@itcenex.com